

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	侑ハウス					
事業種別	障害者支援施設					
開催日時	令和 7 年 9 月 25 日 木曜日 10 : 00 ~ 12 : 00					
開催場所	侑ハウス会議室					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)	
	利用者	1 名		名	利用者代表	
	利用者家族	1 名		名	保護者会会長	
	地域の関係者	1 名		名	函館市桔梗西部町長	
	福祉に知見のある人	1 名		名	函館市地域包括支援センターよろこび センター長	
	経営に知見のある人		名	名		
	施設職員	5 名		名	施設長、A課長補佐、B課長補佐、C課長補佐、ちぐさ寮チーフ	

2. 議題内容

1. 施設長あいさつ

「この度はお忙しい中お集まりいただき誠にありがとうございます。この会議は、今年度より障がい者居住施設において、利用者の方々の生活をより豊かなものとするため、ご家族、地域住民の皆様、各関係機関と連携を強め、お互いの理解を深めることはもちろん、より開かれた施設運営を行うことを目的で開催するものです。是非忌憚のないご意見、ご感想などをお話ししいただければ幸いであります。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。」

2. 委員自己紹介

A課長補佐: まず始めに、各委員の自己紹介をお願いします。

町内会会長: 函館市桔梗西部町会の会長をしております、〇〇です。今日はよろしくお願ひいたします。

センター長: 函館市地域包括支援センターよろこびのセンター長を務めています、〇〇です。よろしくお願ひします。

保護者会長: 侑ハウス保護者会の会長をしております、〇〇です。息子が長年こちらでお世話になっております。今日はよろしくお願ひします。

利用者代表: 〇〇〇〇〇です。お願ひします。

施設長: 施設長をしております。〇〇です。せっかくの機会ですので、ご意見などたくさんお聞かせ下さい。

A課長補佐: サービス管理責任者、課長補佐の〇〇です。よろしくお願ひします。

B課長補佐: 課長補佐をしております、〇〇です。よろしくお願ひいたします。

C課長補佐: 課長補佐の〇〇です。よろしくお願ひします。

チーフ: ちぐさ寮のチーフをしています、〇〇です。お願ひします。

3. 施設概要説明(A課長補佐より)、関連して意見交換

「それでは、資料に沿って侑ハウスの概要を説明させていただきます。お手元の資料の沿革をご覧ください。平成13年1月、知的障害者更生施設侑ハウスが開設されました。石川町の旧函館青年寮の移転改築に伴い新設されました。平成24年4月には、障がい者自立支援法施行により、障がい者支援施設に移行しています。また、そのタイミングで乾燥作業を行う作業棟を敷地内に建設しています。次に施設の概要を説明いたします。経営主体は、社会福祉法人侑愛会です。施設種別、つまり提供しているサービスは、施設入所支援、生活介護、短期入所の3つです。定員は、40名。ショートステイ2名です。全員男性が暮らしています。ちぐさ寮20名、やぐらま寮20名に分かれ、部屋は全室個室となっております。その寮の共用スペースとして、ホール、洗面所、トイレ、洗濯室、乾燥室などがあります。職員配置は、施設長、管理職、サービス管理責任者、支援員、作業員、看護師、栄養士、調理員、事務員などです。支援理念は、日々の生活と働くことを中心とした日中活動を通して、社会的自立の促進を促すものであります。」

現在の利用者状況についても説明いたします。利用者40名の年齢は、下は19歳から上は77歳までと幅広く、平均年齢は53.1歳となっています。障害支援区分は区分4以上の方のみおられ、平均は5.06となっています。引き続き、次の資料にて、生活や作業の様子、外出や旅行の様子などを写真とともに御覧いただきたいと思います。まず、生活の様子ですが、個室で過ごされている写真や、ホールで皆さんが食事している写真があると思います。」

(センター長)

「個室、とても広いんですね。」

(B課長補佐)

「写真の撮り方で広く見えているかもしれません、この個室の様子が皆同じではなく、利用者の方それぞれが趣味や好きな物を飾っていたりと過ごしやすい部屋になるよう心がけています。」

(A課長補佐)

「次に、近くのスーパーで買い物や散髪に出かけている写真です。」

(町内会会長)

「買い物の写真は上磯イオンですか？散髪や買い物は一人で行けるんですか？」

(C課長補佐)

「一人で行ける方は歩いて一人で。グループで行く方もおられます。」

(A課長補佐)

「買い物では計画的にお金を使用できるように、事前に予定を話し合ったり、買ってきてから確認をしたり、助言をしたりしています。買いつすぎたり間違いますが、それもご本人の経験になると思います。続いて、日中活動の様子になります。同じ法人のおしま菌床きのこセンターと連携し、椎茸栽培の仕事を行っています。写真のきのこ摘み取りの他にも作業種があるため、皆が同じ仕事ではなく、例えば、選別が得意な方は選別の仕事などに分かれて行っています。利用者代表〇〇さんは仕事どうですか？」

(利用者代表)

「僕はハウスで摘み取りの仕事を頑張っています。」

(保護者会長)

「毎日大変だと思うけれど、偉いですよね。」

(A課長補佐)

「また、次のページでは、乾燥椎茸作業の様子が見られると思います。乾燥班は先のハウス内の作業と異なり、主で行います。一人ひとりの年齢や作業能力に合わせて試行錯誤しています。町内会会長：食事や入浴などが終わったら、居室で何をして過ごしているのですか？」

(利用者代表)

「ホールでテレビを觀てます。野球、ジャイアンツとか。」

(寮チーフ)

「利用者代表さんのように、ホールでテレビを觀ながら他の方と過ごす方もいれば、各居室にもテレビがあるので、觀たい番組が違うれば各々居室で觀たりもしています。部屋で趣味のジグソーパズルなどしている方もいます。」

(施設長)

「余暇のほか、それぞれが分担して掃除や係なども行ってもらっています。食事は厨房で作ってもらっているが、配膳や食器洗いはできるだけ本人たちに行ってもらっています。」

(A課長補佐)

「最後に外出や行事です。昨年はエスコンフィード北海道や青森などに分かれて旅行に行きました。普段の仕事、寮での日々の生活、そして旅行などの行事、暮らしにメリハリがあるよう意識して支援しています。」

(利用者代表)

「僕は今年、福島へ旅行に行きます。ハワイアンズ見に行きます。」

(センター長)

「お客様扱いではなく、自立した大人を目指して支援されていることがすごいと感じます。A課長補佐：良い部分ばかりを説明してきた感じですが、一方で課題というか、この分野での人手不足は年々深刻になってきていると感じます。皆さんに褒めていただいたような支援をこれからも継続していくためには、やはり若い人にもっと興味を持っていただき、一緒に働いて欲しいと思っています。」

(施設長)

「施設でどういう仕事をするのか知らない、知られない。函館臨床など地域の専門学校も閉校になっているし、こういう福祉の仕事をしたいと思う人が減っている現状です。高齢者施設のイメージはつくが、障がい者施設はイメージしづらい。昔より、ふれあう機会も減っていると感じています。もっと我々も努力が必要を感じています。」

(センター長)

「市内に包括支援センターも10カ所あるが、半分くらいが人手不足です。特に訪問介護の職員が足りない現状です。保護者会長：職員の確保のために、何かできることはないか、私もいつも考えてしまいます。」

(施設長)

「以前は、バザーやお祭りなど地域の方との交流もあったのですが、コロナや人手不足もあったりして途絶えてしまっています。これからも町内会など地域の皆さんにこういう会議を通してまずは知つてもらうことが大事ですし、町内会の行事で見学などしていただけると有り難いと思っています。」

4. 施設内見学、関連して意見交換

(A課長補佐)

「それでは、実際に内部を見学していただきたいと思います。現在いる場所が管理棟、と呼ばれている場所で、会議室、職員室、医務室などが並んでいます。こちらが厨房です。ここで朝、昼、夕の食事を調理していただき、温かい食事が各寮に運ばれていきます。」

(町内会会長)

「配膳はどうされているんですか？」

(C課長補佐)

「配膳は、利用者の係の方が主に行います。盛り付けなど必要に応じて職員が補助する感じです。A課長補佐:こちらが、やぐるま寮になります。5人単位での洗面所やトイレ、1階2階合わせて10人で1ユニットになっています。また、ここがお風呂場で、洗濯はこちらで一人ひとり自分で行っています。ひとつの洗濯機で1日4~5人が使用するので、故障するのも早いです。」

(センター長)

「生活空間が施設っぽくなくてすごく良いですね。今はユニットケアが主流。ソファーの配置や絨毯など家庭的な雰囲気がありますね。施設でこういう風なのは中々無いのではないかと思います。」

(施設長)
「そう感じていただけると有り難いです。この建物を作るときにできるだけ一般の住宅に近いように意識して設計しましたし、家具などの調度品も施設らしくないように心がけました。」

(A課長補佐)

「こちらが居室になります。この部屋の方は列車などが好きな方で飾っていますが、その方によっては野球の応援グッズや、CDや雑誌など揃えている方もおられます。」

(保護者会長)

「好きな物に囲まれて、楽しそうなお部屋ですね。」

(寮チーフ)

「〇〇さん(息子さん)は、テレビやラジオ番組を熱心に聴いていますよね。」

(町内会会長)

「鍵一つにしてもキーホルダーが付いていたりと個性がありますね」

(B課長補佐)

「これは今までの旅行先でお土産で買った物かな。使いづらそうな大きすぎるキーホルダーですが、気に入っているようです。」

(A課長補佐)

「最後に、こちらが日中活動を行っている乾燥棟になります。選別、並べ、運びなど各工程に分かれて作業を行っています。では、先ほどの場所に戻りたいと思います。」

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

5. 意見交換

(センター長)

「隣の作業棟へ行くのに作業着での出勤ではなくて、作業棟で更衣しているのはすごく良いことだと思います。」

(施設長)

「今でこそあまり言われなくなりましたが、職住分離という考えは非常に大事だと思っています。我々もそうですが、仕事と生活の場は別であるべきで、暮らしにメリハリがあるべきだと思っています。また、生活空間は、この施設を建てる際にできるだけ施設っぽくならないようにかなり意識していました。」

(保護者会長)

「昔からそうした考え方で運営されていますよね。」

(町内会会長)

「選挙の際に利用者の方が町内会館に来てくれています。皆さん一所懸命に書いて投票していますよね。」

(寮チーフ)

「皆さん、昔から選挙に参加したい方、楽しみにしている方が多いです。これからも支えていきたいです。」

4. その他

6. 昼食

(施設長)

「利用者の皆さんが今日食べているものと全く同じものをぜひ食べていただきたいと思います。どうぞお召し上がり下さい。」

(保護者会長)

「美味しいですね。このしいたけはここで栽培しているものですよね。」

(町内会会長)

「ボリュームがありますね。」

(A課長補佐)

「これでもみなさん女性ということで、ご飯の量は少なめかと思います。利用者の方は男性で働き盛りなので、ご飯も汁物もおかわりする方も多いです。」

(センター長)

「彩りなども考えられているんですね。」

(施設長)

「栄養士を中心とした厨房の職員が工夫を凝らして作ってくれています。でも最近はお米の価格など物価高でメニュー作りには苦労していると聞いています。」

「それでは、今日は貴重なご意見もいただき、皆様誠にありがとうございました。来年の会議やそれ以外でも繋がっていただけたらと思います。本日はありがとうございました。」

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況

事業所名	函館青年寮				
事業種別	障害者支援施設				
開催日時	令和 7 年 9 月 24 日 水曜日 10 : 30 ~ 12 : 30				
開催場所	函館青年寮 会議室他				
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)	
	利用者	1 名		名	Y氏
	利用者家族	1 名		名	N保護者会会長
	地域の関係者	1 名		名	Y石川町会会長
	福祉に知見のある人	1 名		名	A函館市地域包括支援センター亀田主任
	経営に知見のある人		名	名	
	施設職員	4 名		名	K施設長、G課長補佐、O支援員、S支援員

2. 議題内容

1. 事業所からの報告

(施設職員4名より)

- (1) 地域連携推進鍵の目的について
- (2) 障がい者支援施設の役割、知的障がいの理解について
- (3) 社会福祉法人侑愛会について
- (4) 函館青年寮について
- (5) 地域との交流や苦情等について
- (6) 利用者の権利擁護の取り組みや、災害対策について
- (7) 利用者の日常生活や、職員の支援内容について

2. 地域住民から頂く苦情についての情報交換

(K施設長、G課長補佐より)

- ・近年の地域住民から頂いた苦情内容についてご説明。
- ・苦情内容も様々で、職員に関する事、騒音、害虫や害獣についての苦情を報告。
- ・特に騒音については、利用者行事の敷地内で行った打ち上げ花火に対して、近隣住民から強い態度での苦情を頂く事案であった。
- ・この地域の苦情事案の特徴などを石川町会会長よりお話し、ご助言を伺いたい。
(Y石川町会会長より)
 - ・石川町会の巡回をしていて、今年はカラスの巣を2件ほどあり、また通学路にハチの巣を見つけ函館市に駆除を依頼した。敷地内になると責任は函館市ではなくなるので、駆除が難しいケースもある。
 - ・花火の件について、石川公園で17~18年前に「火の取り扱い禁止」になったが、その経緯には高校生の花火やゴミ問題があり、その時から近隣住民にとってかなり敏感になっているところがある。
 - ・昔、函館青年寮の入所者が地域から不審者と勘違いされたことがあり、地域として申し訳なかった。
- (K園長より)
 - ・過去、ワークショップはこだてに通う在宅利用者(自閉症)の方が、北美原小学校付近で不審者として扱われパニックになるケースがあった。警察からも問題解決を要請され、このような事案になるとこれまで自分の力で通うことが出来ていたものが、送迎に切り替えるを得なくなってしまう。この事案をきっかけに、毎年、北美原小学校で近くの特別支援学校の先生が障がいについて理解を深める機会を持つなど交流ができるきっかけとなることがあった。

(亀田包括支援センターA氏より)

- ・高齢の分野では、地域の方々への働きかけとして、「認知症サポーター養成講座」がある。障がいについて地域の方々から理解を得る方法を、一緒に何か考えていければと思う。

3. 災害他作についての情報交換

(G課長補佐より)

- ・BCP(業務継続計画)について函館青年寮が有する備蓄など概要をご紹介。
- ・石川地区は地理的に、災害リスクとして「洪水」「地震」があり、「津波」の心配は少ない。石川町の歴史を知るY石川町会長に、町内で過去実際に起きた災害についてお聞きしたい。
- (Y石川町会長より)
- ・この地域を流れる川は、今では拡張整備がされたが、30年くらい前は氾濫することも多かった。この地域には要支援者が26名おり、避難が必要な時はすぐに連絡を入れるような体制にしている。

4. 地域交流についての情報交換

(G課長補佐より)

- ・地域交流については、特にコロナ禍を境に入所利用者が外出する機会が減ってきてている。
- ・高齢化している理由もあるが、今後地域と交流していくためご助言を頂きたい。
～昭和50年開設以来、石川地区で暮らす、また通いの利用者と地域との繋がりや経過について皆で意見交換する。
- (Y石川町会長より)
- ・子どもたちに「住んで良かった」と思える地域づくりになればと思い活動している。町内会の催しは祭りだけではなく、学校など関係機関と連携したりして活動を広げていきたい。ふれあい昼食会では、ワークショップはこだての利用者さんの参加されることを毎回楽しみにしている。
- (N保護者会会长より)
- ・侑愛会の初代理事長は「障害者にとって一番大切なのは健康だ」と仰っていた。全国的にみても法人の中に診療所があるのは珍しく、先駆的な取り組みをされてきたと思う。今後ともよろしくお願いします。

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

(亀田包括支援センターA氏より)

- ・障害者分野のことは知らないことが多い、今回参加してみて分かったことは多い。地域包括にある自立相談支援機関として、高齢者に限らず地域の幅広い相談に応じていくため、障がい分野とも連携を広げていきたい。障がいの理解を地域に発信していくには、いきなり対面の場に出るのはハードルが高いと思う。関係機関の力を借りながら、少しずつ進めていくのが良いと思う。高齢、児童、学校など、お互いの分野で広げていければと思う。例えば、中央小学校で「認知症カフェ」を開催しているが、そのような場に参加するのも良いかも知れない。

※上記の提案を受けて、10月3日のチーフ会議で議題に取り上げる。

- ・地域交流について、A氏から「認知症カフェ」に参加するご提案を頂きました。入所施設で暮らす利用者が、地域で生活するということは単に外出するだけはありません。地域の人々から認められ、共に生きる地域づくりをしていくためには、地域に理解していただく取り組みが必要であり、また計画的戦略的に進めていくことをご助言いただきました。まずは11月8日に開催される「認知症カフェ」に利用者職員ともに参加することを第一歩にしたいとおもいます。実際に参加して職員や利用者から意見を汲み取り、地域との交流、地域生活とは何かを考えていきます。函館青年寮は石川地区拠点に地域生活を目指す施設として取り組んできた歴史がありますが、入所利用者の高齢化、重度化が進み、外に出る機会も減っています。この先、地域交流どころか建物の中で1日が終わってしまうような、入所者の生活となっていく不安があります。高齢でも、重度でも、入所する利用者が地域との繋がりがなくならないよう取り組んでいく必要性を職員で再確認しましょう。

4. その他

見学会の実施

- ・施設見学(管理棟→すぎな寮→なづな寮→外周→ワークショップはこだて)／30分

昼食会の実施

- ・ワークショップはこだて食堂／12:00ころより

最後に(K園長より総括)

入所施設はその性格上、閉鎖性などの課題を内包しています。地域の関係者と連携しながら事業運営の透明性やサービスの質を高めることができます。時間が足りないくらい、やり取りがありました。函館青年寮は、ほかの入所施設との違いの一つとして、その立地条件があります。首都圏などの都市部を除いて、ここまで住宅街の真ん中に位置する入所施設は珍しいです。そうした地域性もあるのか、皆さんもご存じのように苦情案件が複数続いている。そのあたりのエピソードをお伝えしながら、外部委員の方々から私たちがどう見えているのかなどについてお話しいただき、意見交換をすることが出来ました。とても有意義でした。

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	星が丘寮、侑愛荘、ねお・はろう					
事業種別	障害者支援施設					
開催日時	令和 7 年 10 月 17 日 金曜日 13 : 30 ~ 15 : 30					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名	名	侑愛荘より		
	利用者家族	3 名	名	それぞれの施設の保護者会会長		
	地域の関係者	1 名	名	地域代表委員		
	福祉に知見のある人	1 名	名	地域包括支援センターかけはし所長		
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	名	名	星が丘寮(施設長、副園長、課長補佐、寮チーフ、侑愛荘(施設長、課長)、ねお・はろう(施設長、課長、A課長補佐、B課長補佐)		

2. 議題内容

1. 開会

星が丘寮施設長より開会の挨拶を行っている。

2. 自己紹介

参加者がそれぞれ自己紹介をしている。

星が丘寮施設長より、今後は年一回程度の開催頻度で会議を行っていきたいと説明をしている。

3. 地域連携推進会議について(資料参照)

星が丘寮施設長より、地域連携推進会議開催にあたっての経緯や目的について説明している。

会議の目的としては

(1)利用者と地域との関係づくり

・利用者が地域の一員として安心して暮らせるよう、地域とのつながりを深める。

(2)地域の人への施設や利用者に関する理解の促進

・施設の活動や生活を知ってもらい、相互理解を促進する。

(3)施設やサービスの透明性・質の確保

・外部の目を入れることでサービスの質を保ち、改善につなげる

(4)利用者の権利擁護

・利用者の声がサービスに反映されているか確認し、意思決定支援なども含めて権利を守るとなっている。

また、今回議論いただきたい点として

①意思決定支援の在り方

②居室、定員や生活環境、日中活動の状況

③強度行動障害を有する方や医療的ケアが必要な方への専門的な支援、専門性の地域への還元

④重度・重複障害のある方を含む地域移行を進めるための取り組み

⑤厳しい人手不足の状況下における居住支援に係る生産性の向上や定員確保

以上について忌憚のない意見交換をしていただきたいとお伝えしている。その他、資料に沿って施設入所者数の推移などについて、データで示し、説明をしている。

4. 星が丘寮の概要について(資料参照)

星が丘寮施設長より、星が丘寮の概要及び現状と課題について説明をしている。

質疑応答

→特になし

5. ねお・はろうの概要について(資料参照)

ねお・はろう施設長より、ねお・はろうの概要及び現状と課題について説明をしている。

質疑応答

→特になし

6. 侑愛荘概要について(資料参照)

侑愛荘施設長より、侑愛荘の概要及び現状と課題について説明をしている。

質疑応答

→特になし

7. 施設見学

星が丘寮(6寮)、ねお・はろう(もえぎ)の見学を実施している。

※侑愛荘はコロナ感染により見学は次年度以降実施予定

見学では各事業所の職員が実際の設備や支援内容について説明を行っている。

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

8. 意見交換

(地域包括支援センターかけはし 所長より)

「資料にある、強度行動障害とは何なのか？」

(星が丘寮施設長より)

「強度行動障害は行政用語とはなっている。著しい破壊・他害・自傷・飛び出しなど、普通の生活では受け入れがたいような行動上の課題を有する方が強度行動障害と呼ばれる。多いのは知的障害のある自閉症の方々である。うまく表現が出来ず、結果的に問題行動を引き起こすことが多い。国としてもそういった方々への支援に力を入れており、加算面でも評価されてはいる。欧米ではチャレンジ行動ともいわれており、支援者側の関わりで様々なことにチャレンジしていくことで行動が改善していくともいわれている。星が丘寮やねお・はろうではそういった方々の支援を積極的に行っていくために、研修に参加している。」

(地域包括支援センターかけはし 所長より)

「施設内の居室が配慮されており、利用者の方が安心して生活を送っているのが見られてよかったです。北斗市内の高齢施設でも、ほとんどで外国人人材の雇用がされている。また、ICT化も進んでいる。高齢障害問わず、連携して情報交換をしていきたいと思った。」

(星が丘寮施設長より)

「障害者の高齢化は、65歳問題があげられている。障害サービスを利用していると、介護保険の適用外になってしまう。高齢障害者の方々は施設やグループホームで支援を継続していく必要性もある。」

9. 各施設の保護者会会長より

(星が丘寮保護者会会長より)

「親の立場で、今日見学した施設は何度も見たことがあり、懐かしさを感じた。コロナ対策の大変さも伺い知ることが出来た。双方の施設でも課題は異なり、施設を利用されている方々側もそうだが、地域側もアクションを起こしていく必要性も感じた。その積み重ねが地域の理解につながるのではないか。人手不足もあり大変だとは思うし、その難しさがあるのも理解はしている。」

(星が丘寮施設長より)

「散髪の例を挙げると、これまで当別内で散髪を行っていたが、地域の床屋で散髪をしたケースがある。大切なのは手順書や、本人の特性の説明である。結果的に何事もなく終えられたケースもある。地域の理解には、そういったことをきっかけにうまく進むこともある。」

(ねお・はろう保護者会会長より)

「自分の子供ことで言うと、家に帰つくると寝ないことが続いている。結果、本人がふらつくことがある。自分の子供であっても考えていることが理解できないことがある。他の方も、家に帰つくると寝ないことがあると話していた。そのような状態で散歩などをする時、転倒することもある。施設ではしっかり寝ているようなので、家で過ごすのと施設で過ごすバランスを考えたい。保護者も高齢化が進んでいるので...。施設でわがままは言ってないか、ちゃんとやれているのか...と考えることもある。本人の意向に沿った生活をしてほしいが、実際に訴えることが出来る利用者はどのくらいの割合いるのか。大変な利用者支援をしている職員の大変さも十分に理解している。子供が高齢になっても、別の施設を検討するのは実際に難しいと考えている。生活環境の変化は、本人にとって負担が大きいと考えている。今後も協力できる部分は協力していきたい。」

(星が丘寮施設長より)

「障害者支援の難しさは、どれだけ準備できるか。様々なライフステージに向け、どれだけ準備ができるか。本人の機能低下もそうだが、保護者の状況も含めて。生活環境が大きく変わった時にどう対応していくのか、を保護者とも一緒に考えていく必要がある。」

(侑愛荘保護者会会長より)

「妹の立場として。兄は兄、自分は自分と育てられた。父親から引き継いだ際、入所施設の全国大会に参加したが、その時に施設がなくなることを良しとする団体がいた。施設の保護者としては、その感覚は理解できなかった。ただ、安直に地域移行するのは違うと考えている。残りの人生、何も心配なく生活してほしいというのが切なる願い。親無き後、姉弟無き後のことを真剣に考えることがある。その為に施設は大切なんだと感じた。今は施設に入所させてもらい、感謝している。兄も高齢になり、頑固な面もあるが、そこは理解してほしいと思う。高齢になり、穏やかな生活を送るのは施設なんだろうな、と思う。」

(星が丘寮施設長より)

「星が丘寮もねお・はろうも入所希望者が未だ多くいる状況。国の方針とは逆行しているが、施設を希望する人がいるのも事実。大切なのは施設がどうではなく、様々な選択肢の中から選択出来る仕組みなのではないか。特に高齢期はたくさんの仲間と支えてくれる人がいて、その中で穏やかに過ごすことが大切である。全ての人が地域で生活することが正解ではないと考えている。全ての人にとって安全で、安心した生活を遅れる場所として施設がある。外部の目を通し、施設への気付きなどはぜひとも意見を頂ければと思う。」

4. その他

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	まるやま荘					
事業種別	障害者支援施設					
開催日時	令和 7 年 11 月 15 日 土曜日 9:30 ~ 10:15					
開催場所	まるやま荘園長室					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名	名	利用者代表		
	利用者家族	2 名	名	家族代用2名		
	地域の関係者	1 名	名	地域住民代表		
	福祉に知見のある人	1 名	名	福祉専門職代表		
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	10 名	名	園長、副園長、日中チーフ職員8名		

2. 議題内容

1. はじめのあいさつ

2. 地域連携推進会議の説明(目的、内容、効果)

3. 参加者紹介

4. 議題1「運営にあたって」

- ワークショップまるやま荘は、平成4年に入所授産施設として開設され、その後、障害者支援施設へと形態を変え、施設入所支援と生活介護、就労継続支援B型の事業を実施。
- 授産施設として事業を開設してきたこともあり、日中活動では生産活動を中心に活動を組み立てている。生活介護では、利用する方のニーズを幅広く受け止め、これまで進められてきた手造り味噌の製造やクリーニング作業などと共に活動内容をこれまで以上に充実させ、利用する方一人ひとりが達成感や充実感を得られる活動の提供に心掛けている。
- 就労継続支援B型では、グループホームや在宅等、地域で暮らす方達の就労の場であり、パン製造等自主生産活動を中心とした取り組みを継続。そして作業量の維持と工賃の向上を目指している。

5. 議題2「施設概要説明」

- 資料を用いて沿革、職員体制、職務組織、日課表、年間行事計画、利用者状況について説明を行う。

6. 議題3「」課題等の報告について

①利用者の多様化と女性利用者の高齢化

～自閉症の方の利用が増加し、強度行動障がいなど支援の困難さを抱えているケースがある一方で、年齢が55歳以上の利用者の占める割合が高くなっている。特に女子寮においては、約半数の方が50歳以上となっており、身体機能の低下がみられ、障がい特性やニーズに即した支援が求められている。

②人材育成

③専門性の向上

～経験年数の長い職員の割合が低下してきており、法人内外の研修に参加してもらい、施設全体の人材育成に繋げていきたいと進めているところ。

④設備の更新

～平成4年の開設であり、順次設備の更新をしていかなければならない。

5. 見学

・A棟(1寮)、B棟(3寮)の見学

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

・「個室化について」

家族)二人部屋もあるとのことだが、一人部屋の方が過ごしやすいのではないか?→国はGHへの方針で対応してくれないと思うが…。→ねおはろうのみ当別で完全個室化されており、他は各園状態に合わせ対応している。

・「見学より」

家族)男子寮より女子寮の方が温かい感じがした。雰囲気も良く感じた。

専門)高齢化に関しては今後専門性が求められる部分だと感じた。又、高齢者の介護施設は元々介護目的で作られており目を配りやすいが…。→実際、段差など設備の面で整っていないところがある。障害は元々介護目的で建てられていない。侑愛会は高齢対応の施設があるので、まだ対応ができる方もある。

4. その他

会議を終えての感想等

・第一回目という事で、事業所を知ってもらうことを優先。説明の中で課題点なども話しているが、他園の会議時間もありあまり話を聞くことができなかった。感想に關しても時間があればもっと出てきたのかもしれないと思った。

・今後の会議で課題点等も取り上げていくこととなると思われる。

ふり返り(11月22日に実施)

・令和7年11月22日(土)職員会議 9:30~

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	明生園					
事業種別	障害者支援施設					
開催日時	令和 7 年 11 月 15 日 土曜日 10:15 ~ 11:00					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名	名	明生園利用者		
	利用者家族	2 名	名	明生園保護者会会长、新生園保護者会会长		
	地域の関係者	1 名	名	石別町会長		
	福祉に知見のある人	1 名	名	北斗市地域包括支援センター所長		
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	4 名	名	園長、副園長、課長、サービス管理責任者		

2. 議題内容

議題1、明生園園長よりあいさつ

・今年度より開催義務となった地域連携推進会議であり、明生園についての忌憚ないご意見をお願いしたいことはなされている。

議題2、地域連携推進会議について

・別紙資料「地域連携推進会議実施要項」「地域連携推進会議の目的・内容・効果」を参照
 ・構成員の皆さんが初対面の方もいるため自己紹介から始める。

議題3、施設概要説明

・別紙資料「明生園の概要」「寮構成」「職員数」「日課表」「年間行事計画」「職員研修計画」「IQ状況」「年齢構成の状況」「入所期間」「身体障害者手帳所持者」「精神障がい状況」「障害支援区分の状況」「医療の状況」を参照し、課長の中尾より説明する。
 ・園長より、定員50名に対して現員43名となっており、今後定員減を目指し、利用者居室の個室化を目指すこと合わせて報告。

議題4、事業所の課題等の報告

・施設の概要説明と合わせて状況説明
 ・園長より、明生園の現状として通院数が非常に多くなってきていることに対して、通院には1~2名の職員が引率で出るため、残る施設内での支援が薄くなりがちという問題もあることも報告。

議題5、施設内見学

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

<見学後の感想等>

- ・侑愛会の中で、高齢者支援といえば、すべて侑愛荘だけが行っているのかと思っていた。
- ・障害の特性をとらえて支援していると感じた。
- ・見学中の利用者の表情などから、安心して暮らしていると思った。
- ・ゴミの分別をしっかりしてくれているなあと感じた。

4. その他

令和 7 年 11 月 15 日

令和 7 年度 地域連携推進会議議事録

1. 開催状況						
事業所名	新生園					
事業種別	障害者支援施設					
開催日時	令和 7 年 11 月 15 日 土曜日 11:00 ~ 12:15					
開催場所	新生園会議室					
出欠状況	構成員種別	出席	欠席	備考(内訳、欠席理由等)		
	利用者	1 名	名	新生園利用者代表E氏		
	利用者家族	2 名	名	明生園保護者代表C氏、新生園保護者代表D氏		
	地域の関係者	1 名	名	石別町内会長A氏		
	福祉に知見のある人	1 名	名	北斗市地域包括支援センターかけはし所長B氏		
	経営に知見のある人	名	名			
	施設職員	3 名	名	新生園施設長F 新生園課長G 新生園課長補佐H		

2. 議題内容

議題1. 地域連携推進会議について

1)自己紹介等

2)新生園の概要について

・はじめに新生園園長Fより新生園の概要などについて説明。

・施設視察としては、生活寮からA棟の生活環境、所属利用者の現状などについて話をいただく。その後、視察場を日中活動へと移しディセンター(陶芸棟)での活動内容、ワークセンター(仕組、組立)での活動内容について説明し、実際に活動している様子を見学していただく。

3. 構成員からの質問、要望、感想、提案等

議題2. 施設視察と視察後の意見交換

1)施設視察後の気付きや意見など

○新生園保護者代表D氏より

日中活動については部門ごとに分かれて総勢45名在籍しているが、機械を扱い危険を伴う活動でも大きな事故や怪我無く活動出来ていることに関心した。職員の注意深い見守りや注意喚起などにより、しっかりと活動を行えているのではないかという印象を受けた。

○北斗市地域包括支援センターかけはし所長B氏より

日中活動を通して、社会参加や社会貢献がなされていることが素晴らしいと感じました。実際に活動状況を見学し、製品や作品を手に取ることが出来て嬉しく思います。施設の概要や現状に関して折目園長から説明もありましたが、所属されている方々のライフステージに応じた活動は様々なのだと話を伺って感じました。地域の方々との連携や交流を図りながら活動を継続して欲しいと感じます。

○石別町内会会長A氏より

以前は施設と石別地区の地域との連携や関わりは今よりも多くあったので、このような意見交換の場の設定は今後も継続してやっていくべきだと思う。施設、地域間で互いに協力しあいながら製作した利用者さんの作品を広めていけるようお願いしたい。

○明生園保護者代表C氏より

他園の生活状況や活動の様子を拝見させていただき、施設が近くにあるにも関わらず、これまで他園の施設内を見る機会もなかつたため、良い経験刺激を受けました。

4. その他